

「フーリエ解析と偏微分方程式入門」

正誤表 2014 年 1 月 31 日版

3 刷りのミスプリントのリストです。

ページ・行	誤	正
p. 10: 5 行目	(フビニの定理)	(削除)
p. 10: 脚注	G. Fubini (1879-1943)	(削除)
p. 40: 5 行目	$e^{-R^2/2}$	$e^{-(R^2- \xi ^2)/2}$
p. 40: 7 行目	$e^{-R^2/2}$	$e^{-(R^2- \xi ^2)/2}$
p. 51: 10 行目	$ \lambda ^k$ 分だけが	$\lambda > 0$ として, λ^k 分だけが
p. 51: 10 行目	$ \xi $ として	(削除)
p. 51: 12 行目	$ \xi = 1$ なので, $ \lambda $ のべきが	λ のべきが
p. 51: 演習問題	関数 $h(x)$ を	Plancherel の定理は以下の関数にも適用できる. 関数 $h(x)$ を
p. 93: 2 行目	定常波解	定常波
p. 93: 5 行目	$\{\frac{1}{\pi}\} \cup \{\frac{1}{\pi} \sin nx \sin my\}_{n,m=1}^{\infty}$	$\{\frac{2}{\pi} \sin nx \sin my\}_{n,m=1}^{\infty}$
p. 93: 6 行目	となっている.	となっている (p.20 注意 1.1 とは少し状況が異なっている).
p. 110: 9 行目	連立方程式ではなくて	連立方程式ではあるが, $du/ds = 0$ より単独方程式として扱え
p. 114: 20 行目	$\lambda \neq 0$	$\lambda > 0$
p. 117: 16 行目	$\frac{1}{t}$	$\frac{1}{t} e^{-st}$
p. 123: 23 行目	『常微分方程式入門』共立出版, 2009	『常微分方程式入門 第 2 版』共立出版, 2013
p. 127: 16 行目	$\frac{1}{\pi}$	$\frac{4}{\pi}$